

（２）過去の地震活動

イタリア付近は、アフリカプレートとユーラシアプレートが衝突し、互いに押し合っている地域で、テクトニクス的にも地質学的にも複雑な地域であり、地震活動が活発にみられる。今回の地震が発生したアペニン山脈付近では、局所的に東西方向に伸張する力が主に働くことによって、地震が発生している領域である。

1900 年 1 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域 b）では、M6.0以上の地震がしばしば発生しており、100人以上の死者を伴っている。イタリア国内では、過去に死者が数万人に及んだ地震も発生しており、1915年 1 月13日に今回の地震から南東へおよそ100km離れた場所で発生したM6.7の地震では、死者32,610人の被害が生じた。

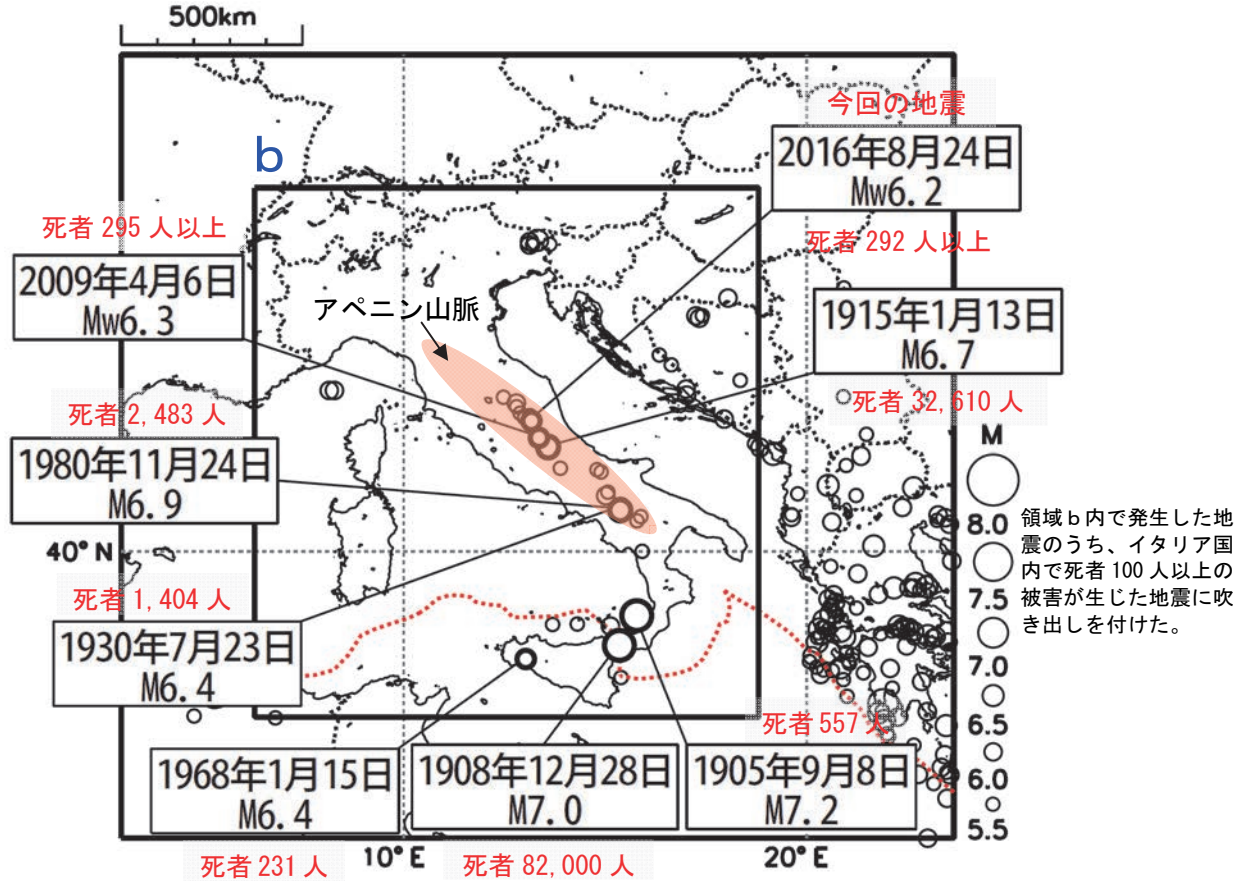
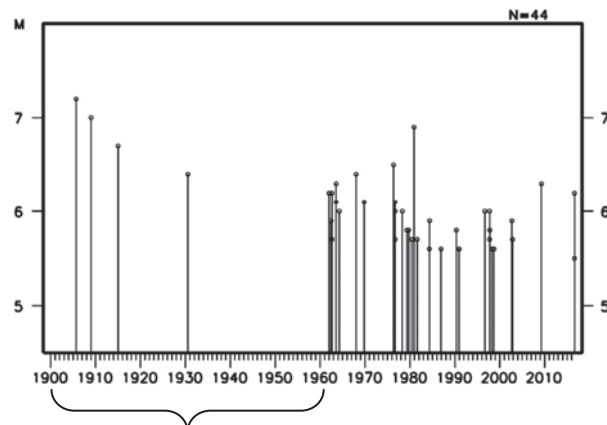


図 2-1 震央分布図
(1900 年 1 月 1 日～2016 年 8 月 31 日、深さ 0～100km、M≥5.5)



(この期間は地震の検知能力が低い)

図 2-2 領域 b 内の M-T 図

※本資料中、1900 年～2012 年の震源要素は国際地震センター (ISC) による。2012 年以降の震源要素は USGS による。プレート境界の位置は Bird (2003) より引用。今回の地震の被害は OCHA による (8 月 31 日現在)。その他の地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。